中学保健体育科教育部会

東山梨地区研究協議会中学校保健体育部会　研究の経過と概要

○　研究テーマ

基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫
～主体的・対話的で，深い学びを通して～

1 研究のねらい

(1)授業実践を通して，基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫を考える。

(2)主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践及び研究を行う。

2 研究の概要

(1)年間2回の授業研究を通して，研究のねらいに迫る。

(2)各校による基礎・基本の定着を目指した授業の改善工夫についての取り組み実践や，学習カードを用いた情報交換，先進校の資料や文献等を参考にして研究を深める。

○本リポートができるまでの具体的経過について

H30　5月　平成30年度東山梨教協研究テーマの決定。

「基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫」～主体的対話的で深い学びを通して～

H30　6月　基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫(各校の実践)

H30　8月　各学校の実践発表・統一授業研究実施内容決定

H30　9月　統一授業研指導案検討実施

H30　11月　統一授業研(授業実践)「球技(ゴール型)ハンドボール」 授業後研究会実施

H31　1月　統一授業研の反省

H31　2月　支部冬季教研，本年度の研究総括と来年度の方向性

R1　5月　平成31年度東山梨教協研究テーマの決定。

「基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫」～主体的・対話的で深い学びを通して～

R1　6月　基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫(各校の実践)

R1　8月　各学校の実践発表・統一授業研究実施内容決定

R1　9月　本リポートの検討，討議実施・統一授業研授業案検討

3　理論研究に基づいた授業実践について

授業では，各グループとも生き生きとした生徒主体の授業が展開され有意義であった。一人一人に役割を持たせ，活動が行えた。またホワイトボードやタブレットが有効的に活用されていた。しかし，タブレット担当の生徒の運動量が少なくなってしまったので，工夫が必要であった。生徒は目標を達成しようと意識しながら活動をしていた。

研究会では，各校の実態に応じた授業実践と情報交換を頻繁に行い，共通認識を持つ中で互いに学び合いながら研究を進めてきた。情報交換の中で得られた知識や研究内容を，自分の学校の実態に合わせて実践していきたい。

Ⅱ　成果と課題

成果について，運動量を確保しながら，主体的･対話的で深い学びの授業実践をし，基礎的な技能の定着を目指し授業の工夫を行ってきた。ICT機器を活用し，自己観察や他者観察をする場を設けた。仲間の技能からよい動き方を見つけたり，映像を通して自己と他者を比較したりすることで，自己の取り組むべき技術的な課題を明確にするなど，知識を実践的に活用する学習活動を充実させた。学習を振り返る場面では，課題解決の過程を振り返るとともに，自他の課題を修正したり新たな課題を設定したりして，主体的な学びが次の授業で生かされるよう工夫した。

課題としては，授業の活動の場面において，対話的な学習をどのように活用していくのかという点である。ICT機器を使用してもただ映像を流しているだけでは，何を生かしてどう改善していくのかが具体的ではない。ゲームとゲームの間に映像を見るときに，何に対して分析をするのか，明確にすることが必要である。

・

実践報告

第２学年３組　保健体育科学習指導案

授業者　山梨市立山梨北中学校
教諭　宮　本　武　彦

１　単元名　球技（ゴール型）「ハンドボール」

２　単元の目標

（１）勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。
　ボール操作と空間に走り込むなどの動きによって，ゴール前での攻防を展開できるようにすること。

（２）ハンドボールに積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，分担した役割を果たそうとすること，作戦などについての話し合いに参加しようとすることなどや，健康・安全に気を配ることができるようにする。

（３）ハンドボールの特性や成り立ち，技術の名称や行い方，関連して高まる体力などを理解し，課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

３　単元の評価規準　　（・：第１学年，●：第２学年，◎：第１，２学年共通）

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単元の評価規準	・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・フェアなプレイを守ろうとしている。 ・健康，安全に留意している。 ●分担した役割を果たそうとしている。 ●作戦等についての話し合いに参加しようとしている。 ●仲間の学習を支援しようとしている。	・自己やチームの課題を見付けている。 ●提供された練習方法から，自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ●仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 ●学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。 ◎ボール操作や，ボールを持たないときの動きなど，技術を身に付けるための運動の行い方を見付けている。	◎ゴール前での攻防を展開するための基本的なボール操作と空間に走り込むなどの動きができる。	・ハンドボールの名称や特性，成り立ちについて学習した具体例を挙げている。 ・技能の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。 ●関連して高まる体力について，学習した具体例を挙げている。 ●試合の行い方について学習した具体例を挙げている。
学習活動に即した評価規準	①練習や試合などを行う際に，道具や器具の出し入れなどの分担した役割を果たそうとしている。 ②作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 ③仲間の学習を援助しようとしている。	①ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ②提供された練習方法から，自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ③仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 ④安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。	①マークされていない味方にパスを出すこと。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと。 ③パスやドリブルなどでボールをキープすること。 ④パスを受けるために，ゴール前の空いている場所に動くことができるようにする。	①ハンドボールに関連して高まる体力について，学習した具体例を挙げている。 ②試合の行い方について学習した具体例を挙げている。

４　指導及び評価の計画

過程		ねらい・学習活動	評価規準				評価方法
			関	思	技	知	
第一次	1	オリエンテーション 〇学習の見通しをもつ 〇学習の準備 ・学習カード ・グループ編成（５，６人組）６グループ ・グループノート ・資料，タブレットの使い方の確認 〇体ほぐし（鳥籠，手押し相撲，４Ｐボール集め，etc）				①	観察 学習カード グループノート
第二次	2	〇基礎技能練習 ・ボールハンドリング ・パス練習 ・シュート練習（ジャンプシュート）	①				観察 学習カード グループノート
	3	〇基礎技能練習（ハンドリング・パス練習・シュート練習） 〇５パス・ヒッティングゲーム ［ルール］ ・３対３。 ・５パスが通ったところで、相手チームの膝から下を狙ってボールを当てると１点。 ●３人全員でボール回せたら＋１点 （空いている空間に走り込むことを意識させる。）			①		観察 学習カード グループノート
第三次	4	〇基礎技能練習（ハンドリング・パス練習・シュート練習） 〇タッチダウンゲーム（全員がボールに絡む） ［ルール］ ・４対４。 ・審判のルーズボールから試合開始。 ・パス回しでゴールまでボールを運ぶ。 ・ボールを保持している間に、相手にタッチされた場合は、その場にボールを置いて相手ボールとなる。 ●１本のパスでのトライは禁止。		①	②		観察 学習カード グループノート
	5	〇基礎技能練習（ハンドリング・パス練習・シュート練習） 〇タッチハンドゲーム（ゴール前の空いているスペースを見つける。） ［ルール］ ・５対５。ドリブルなし。 ・審判のルーズボールから試合開始。 ・パス回しでゴールまでボールを運ぶ。 ●３回タッチされるまで攻撃可能 （タッチされても良いことで、一人ひとりが積極的に攻められるようにする。）	③	③			観察 学習カード グループノート

	6	○基礎技能練習（ハンドリング・パス練習・シュート練習） ○タッチハンドゲーム（ゴール前の空いているスペースに走り込み，ボールを受ける。） ［ルール］・５対５。ドリブルなし。 ・審判のルーズボールから試合開始。 ・パス回のみでゴールまでボールを運ぶ。 ●３回タッチされるまで攻撃可能 （タッチされても良いことで、一人ひとりが積極的に攻められるようにする。） ・シュートはジャンプシュートのみ。 ［得点］ ・ジャンプシュートで決めたら１点。 ・ゴールフレームに当てたら２点。 ・ゴールフレームに当てて入ったら３点。		④	③		観察 学習カード グループノート
第四次	7 8	○ゲーム形式（４対４） ・作戦をグループごとに考えさせ，試合を実施する。 ［ルール］ ・４対４。・試合時間は６分間。間は２分間。 ・メンバーの入れ替え自由　・ドリブルなし、パスのみ。 ・全員がボールに触れてからシュート出来たら２点。 ・チーム全員が相手コートに入っていなければ無得点。 ・チーム全員がバックコートで守備をしていなければ，人数分マイナス得点。	②	②			観察 学習カード グループノート
第五次	9 本時	○ゲーム形式（４対４） ・７，８時間目の成果と課題を踏まえ，パスを受けるためにゴール前の空いている場所に動くことができるようにする。 ［ルール］ ・試合時間は６分間。間は２分間。 ・メンバーの入れ替え自由　・ドリブルなし、パスのみ ・全員がボールに触れてからシュート出来たら２点。 ・チーム全員が相手コートに入っていなければ無得点。				②	観察 学習カード グループノート
		○ゲーム形式（４対４） ・パスを受けるためにゴール前の空いている場所に動くことができるようにする。 ［ルール］ ・試合時間は６分間。間は２分間。 ・メンバーの入れ替え自由　・ドリブルなし、パスのみ ●全員がボールに触れてからシュート出来たら２点。 ●女子が決めたら得点は２倍。 ●チーム全員が相手コートに入っていなければ無得点。 ●チームのＤＦしなければならない３人が，バックコートで守備をしていなければ，人数分マイナス得点。			④		観察 学習カード グループノート

5　単元観

（1）　一般的な特性

①　機能的特性

いろいろな方法のパスやドリブル，ダイナミックなシュートやコンビプレーで攻めたり，チームで組織された防御で守ったりして技能と戦略的な部分の駆け引きをし，勝敗を争うところに楽しさがある。そして，作戦を立て，オフェンスやディフェンスを工夫し，スピーディーな試合展開が楽しめる。

②　構造的特性

ハンドボールは相対する２チームが，走・跳・投を中心とした動きの中でボールを運び合い，相手ゴールにシュートして得点を競い合う競技である。しかし攻防も激しく，展開もスピーディーなため，ディフェンスをかわすパスやステップが重要であり，連携プレイも重視される。また，簡単にシュートをさせないディフェンス技術にも工夫が要求される。

③　効果的特性

スピーディーな攻防が展開されるため，相手の動きに対応する能力が要求され，瞬発力や敏捷性，調整力，持久力が必要とされる競技である。

（2）　生徒から見た特性

ボールを片手で操作しやすく，またゴールも比較的大きいことから，シュートを決める楽しさがあり，スピーディーな攻防の試合展開のため，短時間での十分な運動量を確保できる。そして，体を動かした充実感を得られる。また，身につけた技能を用い，１対１で相手を抜いたり，パスワークから得点をとる方法などに喜びを増すことができる。また，チームスポーツのため，互いに学び合い，励まし合うことに仲間との協力や一体感を得られる。しかし，展開が早いため，持久力や敏捷性などの力に不安のある生徒は，意欲の面で差が出てしまうことが懸念される。

6　生徒の実態

３組男子１９名，女子１４名の計３３名である。多くの生徒は責任感が強く，任された係りの役割をしっかりと行っている。話し合いの場面では，仲間の学習を支援しながら，協力して作戦を立て，実行できている。しかし、数名の生徒は集中力がきれしまい，話し合いに参加できない場面があった。２８名が運動部活動に所属しており，運動への関心が高く，体育の授業にも真剣に取り組む姿勢が見られる。

7　教師の指導観

１年次に身に付けるべき基礎知識や技能の習得状況は二極化しており，ボール操作に慣れ，空いている場所に動くことができる生徒と，上手くボールを扱えず，何をすれば良いのか分からない生徒で分かれている。そのため，基礎技能のより一層の習得とゴール前での攻防を展開する力においては２年次でも継続して取り組む必要があると考える。

２年次の授業では，個人技能のより一層の習得・定着に加え，ゴール前での攻防が展開できるよう授業を工夫することで，個人技術の向上を目指したい。また，リーダーを中心にグループ活動を積極的に行い，自己やグループの課題を見つけ，自分たちに合った作戦を，話し合いながら考える授業を展開していきたい。

８　本時の学習

（１）日時　平成３０年１１月２８日（水）６校時

（２）場所　グラウンド（ハンドボールコート２面）

（３）目標　パスを受けるために，ゴール前の空いている場所に動くことができる。

（４）本時の評価規準

パスを受けるために，ゴール前の空いている場所に動くことができる。（運動の技能）

（５）展開

過程	学習内容と活動	教師の指導・支援	評価方法及び評価規準
はじめ10分	１　集合・整列・挨拶・健康観察 ・男女別，２列縦隊で並ぶ ・安全指導 ２　ウォーミングアップ ・各クラス２列縦隊 （ランニング（３周）・準備運動・補強運動「キャッチボールから遠投」）	○健康状態の把握，体調不良生徒への配慮。 ○男女別でランニング→準備運動→補強運動（キャッチボールから遠投）を行わせる。	観察
なか30分	３　前時の反省と本時のめあての確認		観察
	めあて：ゴール前の空いたスペースに走り込む方法を見付けよう。		
	・グループでの話し合い ・グループごと１列縦隊 ・班長はキャプテンマークを付ける ４　ミニゲーム（４対４） ・１号級ボールを使用 ・試合時間は６分間で３試合実施 ・「攻」のビブスを着た生徒はＤＦをしない ・メンバーの入れ替えは自由 ・ドリブルは１回しても良い ・全員がボールに触れてからシュート出来たら２点	○各グループでリーダーを中心に，本時の班の目標を確認させる。 ○運動が苦手な生徒に対する，動き方の支援をする。 ○グループごと場所を明確にし，危険のないようにする。 ○作戦タイム時には，作戦ボードやグループノート，タブレットで撮った自チームの映像を見て，チームの課題に応じた作戦を立てているか確認する。	**評価：** パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 タブレットを活用した様子を観察

	※作戦タイムを設ける （作戦タイム時には自チームの映像を見て話し合いを行い，次のゲームの作戦を立てる）	●テニスの審判台の上から撮影させる。 （●タブレットで撮影した映像をより見やすくするため，テントの中で話し合い活動をさせる。） 「意識したいポイント」 ・相手の動きを見て，ゴール前の空間を探し，積極的に走り込ませる。 ・仲間と協力しながらパスをつなぎ，ゴール前での攻防を展開させる。 ・ゲームを振り返り，どのような工夫をすれば空間に走り込めるか，課題を明確にさせる。	観察 グループノート
まとめ 10分	5　本時の振り返り ・授業内容の確認 ・本時の学習内容の整理 6　整列・挨拶・次時の確認	○個人反省を学習カード（時間内でできなければ宿題。），グループの反省をグループノートやワークシートに記入をする。 ○話し合い中に巡回をし，本時のめあてにそった話し合い活動をするように促す。 ○話し合いがスムーズに進んでいないところには，助言する。 ○話し合い活動後，生徒に発表させる。 ○良い助言をしている生徒を賞賛する。 ○正しい姿勢で大きな声で挨拶をさせる。 ○協力して片付けをさせる。	学習カード グループノート

◇　指導・助言者から（山梨県教育庁　スポーツ健康課　指導主事　桐原　洋　先生）

〇試合ごとに作戦タイム（班での反省や課題を言う話し合う活動）を設けたことが良かった。
〇各班の生徒が班の目標を意識できていた。
〇特別ルールの設定により，運動が苦手な生徒も意欲的に授業に取り組めていた。
●タブレットでの視点を事前に説明する。
●８時間目で最後の授業であったため，全ての班が発表するのも良い。
●振り返りの時間にもう少し時間をあてられると良い。
●良い例があれば，動画で見せられると，生徒が理解しやすくなる。
・班でたてた目標を，次の時間で別の班が実践してみるのもよい。

◇　授業者から

〇継続指導により基礎・基本の定着につなぐことができた。
〇目標などを視覚的に捉えられるところに掲示することで，課題提示の工夫ができた。
〇話し合いを積極的に取り入れることで，自分たちの課題等を見つけることができた。それらに対し自力解決することで，自力解決，相互解決が主体的・対話的で深い学びとなった。
●一時間の中の活動量を確保すること，タブレットを活用した話し合いをすることにおいて，活動のバランスをとり授業に取り組んでいくことができるかが大きな課題である。
●事前にタブレットで見るポイントや視点を与え，事前に良い例などを見せておくとスムースに理解できると感じた。生徒側の視点として，どう理解しどう動くことができるか，という点で多くの教師側のさらなる工夫が必要ではないかと感じた。

◇　授業者反省

継続して授業実践が行えたため，基礎・基本の定着という点で確実な成果を見ることができた。特に，シュート部分を見ると，多くの生徒がジャンプシュートを試みることができていたことは大きな成果であった。初めてハンドボールを経験する生徒は，ステップシュートが多くなってしまうが，特別ルールや練習方法の工夫によりジャンプシュートの修得ができたことはよかった。

本時のめあてである「ゴール前の空いたスペースに走り込むためには，どのようにすればよいか」については，２年間を通し段階的に考え取り組んだ。（１）空間を（①探す，見つける。②走り込む。③つくる。）（２）仲間と協力し，ゴール前のスペースに走り込む、と意識することで徐々に空間に走り込めるような授業展開とした。また，ゴール型のどの球技においても空間に走り込むことを意識するようなタスクゲームを取り入れたことで，今後多くの他競技に生かせるよう工夫を行った。意欲面については，ハンドボールを経験したことがない生徒がほとんどであったが，積極的に取り組む姿勢が見られた。しかしながら技能レベルが上がった時に，運動が苦手な生徒はなかなか活躍ができないことが課題となる。そこで，特別ルールの設定，さらにペア・グループ学習を活動と活動の間に繰り返し取り入れることで，ほとんどの生徒が主体性を持って話し合いに参加することができた。なかでも，互いに教え合う姿やよりよい意見を出し合う姿が見られたことが大変大きな成果であった。単元の途中から各班でホワイトボードとマグネットを用いた作戦ボードやタブレットを活用すること，これまで以上に具体的な自分たちの成果や課題，改善点などを話し合えるようになった。タブレット等のＩＣＴ活用の成果が出た。しかし，指摘されたとおり，種目によってはＩＣＴを活用することができない種目もあるため，その単元における全体計画を立てる段階で判断することが大事だと実感した。